

オリンピック先生



みよしともひろ

三好 智弘 先生

【水泳／競泳】

- 生年月日 1970年7月13日
- 出身地 神奈川県相模原市
- 出身校 相模原市立若草中学校－
湘南工科大学付属高等学校－
日本大学



プロフィール

10歳から水泳を始め、高校3年時のインターハイ200mバタフライで高校新記録を樹立し優勝。大学2年・3年時には日本選手権水泳競技大会同種目で2連覇を達成し、1992年バルセロナ大会への出場を果たす。引退後は、母校の教員として水泳部を率い、2006年から2012年のインターハイに於いて、男女合わせて6回の総合優勝に導く。また、東京2020大会や世界水泳選手権2023福岡大会に於いて、卒業生の4名が日本代表として出場する等、指導者としてもその手腕を発揮している。現在は、かながわアスリートネットワークメンバーとしても活動し、スポーツの振興や競技の普及に尽力している。

主な成績

<オリンピック競技大会>			
1992年	バルセロナ大会	100mバタフライ 200mバタフライ	出場 出場
<国際大会>			
1990年	アジア競技大会	100mバタフライ 200mバタフライ	3位 2位
1992年	アジア水泳選手権大会	200mバタフライ	優勝
<国内大会>			
1990年	日本選手権水泳競技大会	100mバタフライ	優勝
1990年・1991年	日本選手権水泳競技大会	200mバタフライ	優勝

水泳／競泳

一定の距離を決められた泳法(自由形、背泳ぎ、バタフライ、平泳ぎ)で泳いでタイムを競います。それぞれの泳法はもちろん、スタートの飛び込みから水中動作、ターンに至る一連の加速、水の抵抗を極力受けないためのテクニックも重要です。10kmマラソンスイミングだけが、海や川、湖等、プール以外で行われ、オープンウォータースイミング(OWS)とも呼ばれます。



オリンピック先生



えびさわ だいすけ

蛭沢 大輔 先生

【バイアスロン】

- 生年月日 1978年5月26日
- 出身地 青森県上北郡東北町
- 出身校 東北町立乙供中学校
(現：東北町立東北中学校)－
東奥義塾高等学校－近畿大学



プロフィール

小学時よりクロスカントリースキーを始め、高校2年・3年時、インターハイ15kmフリー種目で2連覇を達成。大学2年時に日本代表に選出され、4年時、全日本学生スキー選手権大会に於いて15kmクラシカル、30kmフリー、4×10kmリレーの3種目で優勝を飾る。卒業後は陸上自衛隊冬季戦技教育隊に所属し、本格的にバイアスロン競技に取り組む。2006年トリノ冬季大会への出場を果たす。同年アジアバイアスロン選手権大会10kmスプリント及び12.5kmパシュートの2種目で優勝。2007年に現役を引退し、現在はスポーツイベントや講演活動等に積極的に取り組み、競技の普及に尽力している。

主な成績

<オリンピック競技大会>

2006年	トリノ冬季大会	10kmスプリント	出場
-------	---------	-----------	----

<国際大会>

2005年	バイアスロン世界選手権大会	10kmスプリント・20km個人	出場
		4×7.5kmリレー	12位

2006年	アジアバイアスロン選手権大会	10kmスプリント	優勝
		12.5kmパシュート	優勝

<国内大会>

2002年	全日本スキー選手権大会	10kmクラシカル	優勝
		15kmフリー・パシュート	3位

バイアスロン

クロスカントリースキーとライフル射撃を組み合わせる競技です。ライフル銃を背負ってクロスカントリースキーで滑走し、途中で射撃をするという、スキー走力の速さと射撃の命中率の正確さを競います。スキー走で最大スピードを追及することで心拍数が極限に達した状態から、ライフルの動揺を抑えるためにいかに短時間に心拍数を下げ命中率を上げるかという、「動と静」の相反する競技性を同時に行うところが魅力。



オリンピック先生



さとう しんたろう

佐藤 真太郎 先生

【ボブスレー】

- 生年月日 1980年8月20日
- 出身地 埼玉県鶴ヶ島市
- 出身校 鶴ヶ島市立藤中学校－
埼玉県立松山高等学校－
早稲田大学－筑波大学大学院



プロフィール

中学時から陸上競技部で活躍し、大学時は日本選手権4×100mリレーで2連覇を達成。卒業後は、大学の専任講師を務めながら陸上競技を続ける。2013年ボブスレー日本代表選手候補選出のためのトライアウトに合格し、本格的にボブスレー競技に取り組む。翌年プレーカーとして日本代表に選出され、国際大会で優勝を収め、2014年ソチ冬季大会への出場を果たす。同大会終了後に現役を引退。現在は大東文化大学准教授及び同大学陸上競技部監督を務め、競技の普及や後進の育成に尽力している。

主な成績

<オリンピック競技大会>

2014年	ソチ冬季大会	4人乗り	24位
-------	--------	------	-----

<国際大会>

2013年	IBSFワールドカップレークプラシッド大会	4人乗り	19位
-------	-----------------------	------	-----

2014年	ノースアメリカカップレークプラシッド大会	4人乗り	優勝
-------	----------------------	------	----

<国内大会>

2013年	全日本プッシュボブスレー選手権大会	2人乗り	優勝
-------	-------------------	------	----

2013年	全日本ボブスレー選手権大会	4人乗り	優勝
-------	---------------	------	----

ボブスレー

ボブスレーは「氷上のF1レース」とも呼ばれており、流線型をした鋼鉄製シャーシのそりに乗り、全長約1400m前後の氷で造られたコースを疾走します。当初は男子だけの競技でしたが、ソルトレークシティー2002大会から女子2人乗りが新種目として加わり、男子2人乗りと男子4人乗りを合わせて3種目となりました。競技は2日間で4回滑走し、合計タイムの一番速いチームが優勝とります。



写真：JOC：AP/アフロ：フォート・キシモト

オリンピック先生



さわの だいち
澤野 大地 先生

【陸上競技(棒高跳)】

- 生年月日 1980年9月16日
- 出身地 大阪府大阪市
- 出身校 印西市立印西中学校－
成田高等学校－
日本大学－
日本大学大学院



プロフィール

中学1年時から本格的に棒高跳種目に取り組む。高校2年・3年時、インターハイ2連覇。大学1年時、日本陸上競技選手権大会で初優勝して以来、同大会通算11回の優勝を誇る。2004年アテネ大会に出場。2005年静岡国際陸上競技大会では、自身が持つ日本記録を更新して優勝、その時の5m83cmの記録は現在も破られていない(2023年8月現在)。2008年北京大会出場、その後、2016年リオデジャネイロ大会へ自身3回目の出場を果たす。リオデジャネイロ大会では、日本人として64年ぶりとなる7位入賞の成績を収める。2021年に現役を引退。現在は大学に勤務しながら、JOC理事、JOCアスリート委員会委員長を歴任。また、スポーツイベントや講演会等に積極的に参加し、後進の育成や競技の普及に尽力している。

主な成績

<オリンピック競技大会>

2004年	アテネ大会	出場
2008年	北京大会	出場
2016年	リオデジャネイロ大会	7位

<国際大会>

2002年・2005年・2011年	アジア陸上競技選手権大会	優勝
2005年	世界陸上競技選手権大会	8位
2006年	アジア競技大会	優勝

<国内大会>

1999年～2016年	日本陸上競技選手権	優勝11回
-------------	-----------	-------

陸上競技(フィールド)

陸上競技でトラックの内側や外側で行われるフィールド競技は、「跳躍」と「投てき」の2つに分けられます。「跳躍」は、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳の4種目で、跳ぶ高さや距離を競い、「投てき」は、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投の4種目で、手で投てき用具を速くへ投げ、その距離を競います。

